

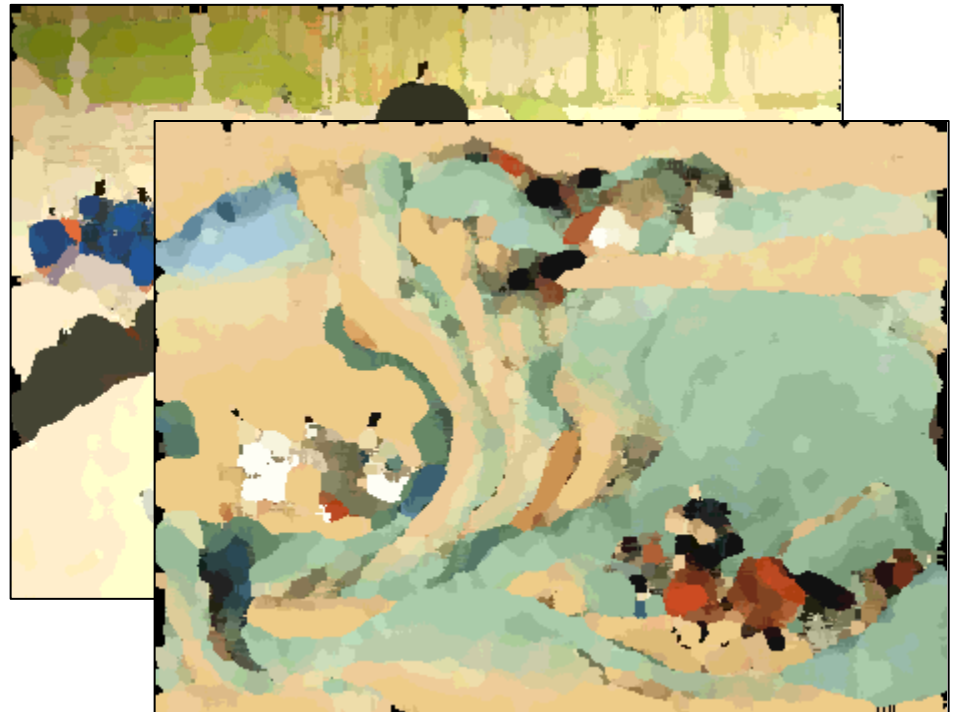
<アイデア>

歴史的分野「(2)ア(ア)」(武家政治の成立とユーラシアの交流)

小学校で身に付けた中世の日本に関する知識を活用して、2枚の絵図から目的に応じた情報を選別して読み取り、単元の問いを設定するアイデア

【本時のめあて】

単元の学習問題を設定しましょう。



※本アイデアは、過去の秋田県学習状況調査を基に、再構成したものです。

本単元に関する学習指導要領の内容

歴史的分野「(2) ア(ア)」(武家政治の成立とユーラシアの交流)

(2) 中世の日本

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 武家政治の成立とユーラシアの交流

(イ) 武家政治の展開と東アジアの動き

(ウ) 民衆の成長と新たな文化の形成

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア) 武士の政治への進出と展開，東アジアにおける交流，農業や商工業の発達などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，アの(ア)から(ウ)までについて中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現すること。

(イ) 中世の日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現すること。

＜本アイディアのポイント＞

- ・一つの単元の学習をデザインする際に、単元全体で一つの大きな問いを設定することにより、生徒が学習の見通しをもって意欲的に取り組むことができます。2枚の絵図を見比べてその背景を予想し、考えを述べ合うことで、単元を通した課題意識をもたせることが期待できます。

古代の政治は天皇や貴族が中心でしたが、中世は武士が取って代わる大きな転換期であるということに気付かせた上で、単元の問いを絞り込んでいけるといいですね。



【展開例】

- ① 2枚の絵図を関連付けて分かることを考える。
※天皇と武士の立場が逆転している
- ② 立場が逆転した理由を予想する。
- ③ 予想をもとに単元の学習問題を設定する。

展開① 2枚の絵図を関連付けて分かることを考える。

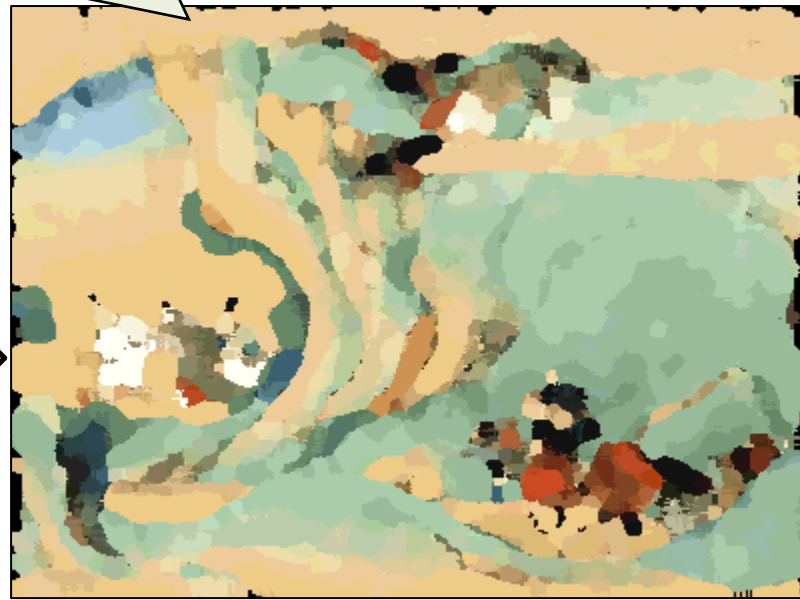
準備物

- 絵図 『太平記絵巻』 第二巻（山中をさまよう後醍醐天皇）
- 絵図 『春日権現験記絵』

天皇と武士の立場が逆転している。



古代の絵図 『春日権現験記絵』



中世の絵図 『太平記絵巻』

展開② 立場が逆転した理由を予想する。

小学校では、鎌倉時代に源頼朝が武士の政治を始めたことを学習したわね。

どうして、天皇が武士に追い回されるようなことになったんだろう。



武士が反乱を起こしたのかな。

武士が力を付けていった背景を探ってみたいな。

展開③ 予想をもとに単元の学習問題を設定する。



「中世」全体の学習につながる学習問題になるといいね。

「天皇と武士の立場が逆転したきっかけは何だろう」はどうかかな。

「武士はどのようにして力をつけていったのか」はどうかかな。



【単元の学習問題（例）】

武士は、どのようにして天皇を上回るような力をもつようになっていったのでしょうか。

受講者の感想

- ・ 私は簡単に学習問題を作ってしまったが、たくさんの意見を発表させることで、古代、中世の特徴を押さえて問題を作ることができることを学びました。
- ・ この単元で何を学ぶのかという見通しをもつ事は、とても大切だと思うので、1時間たっぷりと考えるのは、今後取り入れていきたい。単元のまとめでは、どのようなことをするのか考えてみたいと思う。
- ・ 「2枚の絵図から考えよう」という場面と、「学習課題を設定しよう」という場面があったが、最終的に天皇のことに触れずに課題が設定された。生徒の中には「絵図からは？」と混乱する人もいるのではないか。めあてをつかむ導入部分の様子をもっと知りたいと思った。もしくは設定した後に、もう一度年表を見てフォローしてから単元に入っていく必要があると思った。